

研究課題番号	2-2202
研究課題名	極端気象の将来変化に関する物理的理解に基づく予測不確実性を低減した情報伝達
研究実施期間	2022 年度～2023 年度
研究機関名	東京大学
研究代表者名	高萩縁

1. 委員の指摘及び提言概要

極端化する将来の日本の気象現象に対して、CMIP など複数の気候モデルアンサンブルによる予測不確実性を低減するという目的で、観測結果やモデルとの各種比較を行い複数モデルにおける予測のばらつきの要因を気象の物理過程やパターンとの関連性から評価し提言を行った点は高く評価される。特に海洋を含む大規模環境場との関連や成層圏と対流圏のジェットの分析、海面気圧変化パターンなど各種の要因をとりあげ、論文を数多く出せたことは大きな成果であった。また、不確実性の低減により影響評価においても経済影響の不確実性が低減されることも示されており適応政策にも重要な情報を与えた。今後これらの成果をより発展させ統一のかつ原理的に説明できる不確実性低減手法を検討することや、国民・政策担当者に将来気候の情報をわかりやすく伝えていく工夫を検討されることを期待する。

2. 採点結果

評価ランク：S

総合評価点：125 点